

令和5年度 主要事業評価シート

① 基本事項	計画コード	22041		事業名	鈴鹿関跡学術調査事業			
	事業手法	☐ 直営 ☒ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助等 ☐ その他()						
	施策体系	施策の大綱	01:快適さを支える生活基盤の向上			予算科目	会計	01:一般会計
		基本施策	10:歴史文化を生かしたまちづくりの推進				款	10:教育費
		施策の方向	03:鈴鹿関跡等の文化財の保存と活用				項	05:社会教育費
重点プロジェクト	-			目	05:遺跡調査費			
	事業期間	H 18 年度 ~ R - 年度		主な根拠法令等	文化財保護法・亀山市文化財保護条例			

評価分類	A1
------	----

担当部署	
部	市民文化部
課	文化課 まちなみ文化財G

② 事業概要 (P)	事業の必要性(経緯・背景等)	事業の対象(誰に、何に対して)	事業の目的(どのような状態にしたいのか)	事業の内容(どのような取組を行うのか)
	平成18年度より継続的に実施した鈴鹿関跡範囲確認調査により西辺築地塀の存在が明らかとなり、遺跡範囲のごく一部が国史跡に指定されたが、全容解明には至っていない。今後、これらのことを明らかにし、国史跡の追加指定を得ること で鈴鹿関跡の保護を図る必要がある。	鈴鹿関跡	国の史跡指定地の保存と公開活用を図るため、指定範囲の公有地化を図るとともに、保存活用計画を策定する。また、国の史跡に指定された範囲は、埋蔵文化財包蔵地としての鈴鹿関跡のごく一部分であるため、今後、学術的な調査を行い、国史跡追加指定により保護を図る。	国の史跡指定範囲の公有地化を行い、同指定地の整備・公開活用を図るための保存活用計画を策定する。また、学術調査専門委員会の指導・助言をいただきながら発掘調査等を行い、その成果をもって国の史跡の追加指定を目指す。

③ 事業の実施状況 (P・D)	年度	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
	事業計画	○学術調査専門委員会開催 ○総括調査報告書刊行 ○重要遺跡範囲確認調査 ○啓発事業		○学術調査専門委員会開催 ○国史跡指定地公有地化 ○重要遺跡範囲確認調査 ○啓発事業		○学術調査専門委員会開催 ○保存活用計画策定 ○重要遺跡範囲確認調査 ○啓発事業		○学術調査専門委員会開催 ○国史跡追加指定意見具申 ○保存活用計画策定 ○重要遺跡範囲確認調査 ○啓発事業	
	活動実績 (計画通り実施できたか)	市外の文化財保護団体を対象に鈴鹿関跡の現地案内を開催したほか、自治会を対象に出前講座を実施し、鈴鹿関跡の啓発を行う事が出来た。また、学術調査専門委員会を開催し、委員及び三重県教育委員会等の助言を得て、総括報告書の内容の検討と指定地から出土した遺物の実測や遺構の詳細図版の作成を行ったが報告書の刊行には至らなかった。		国史跡指定地である鈴鹿関跡の約3,500㎡を国庫補助事業を活用して公有地化を完了した。昨年度刊行に至らなかった総括報告書を刊行したほか、学術調査専門委員会の指導の下、今後の調査・研究の基礎データとなる城山の地形測量図を作成した。また、地元住民を対象とした出前講座により、鈴鹿関跡に関する普及活動を行った。					
	計画 額	事業費		5,100千円	5,000千円	32,400千円	14,872千円	6,200千円	6,200千円
			国・県支出金	2,300千円	2,700千円	26,600千円	9,845千円	2,600千円	2,600千円
			地方債		0千円		0千円		
			その他		0千円		0千円		
			一般財源	2,800千円	2,300千円	5,800千円	5,027千円	3,600千円	3,600千円
	決算 額	事業費			3,585千円		14,593千円		
			国・県支出金		1,112千円		8,973千円		
地方債				0千円		0千円			
その他				0千円		0千円			
一般財源				2,473千円		5,620千円			
①期間内計画額(R4-7)		49,900千円		②期間外計画額(R8-)		0千円	①+②総計画額		49,900千円

(令和5年度予算額の内訳)

前年度からの繰越額	0千円
当年度の最終予算額	14,872千円
次年度への繰越額	0千円

④ 指標 (C)	指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	国史跡追加指定	鈴鹿関跡(南側)史跡指定に向けた取り組み	活動		計画値 実績値	包括調査報告書刊行 包括調査報告書内容検討			国史跡追加指定意見具申
	普及啓発活動回数	研究フォーラム、現地説明会、出前講座等啓発事業実施回数	活動	回	計画値 実績値	2 2	2 1	2	2
					計画値 実績値				

⑤ 成果 (C)	事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか)	
	A	計画どおり、国史跡指定地の公有地化を行い、重要な遺構の保存に努めた。また、総括報告書を刊行したほか、城山の地形測量図を作成し、今後の調査・研究の基礎データを収集できた。さらに、地元住民に対し、鈴鹿関跡に関連する歴史的な背景について出前講座を実施することで、鈴鹿関に関する知識を深めることができた。
十分な成果を得た		

事業の対象	事業の目的
鈴鹿関跡	国の史跡指定地の保存と公開活用を図るため、指定範囲の公有地化を図るとともに、保存活用計画を策定する。また、国の史跡に指定された範囲は、埋蔵文化財包蔵地としての鈴鹿関跡のごく一部分であるため、今後、学術的な調査を行い、国史跡追加指定により保護を図る。

(再掲)

⑥ 課題 (C)	事業の達成状況等を踏まえた課題事項	
	城山の地形測量図を作成したが、全体面積10haのうち3haの作成であったため、城山全体の地形測量図を作成する必要がある。そのため、全体の測量図の作成終了後に、赤色立体図化を行うことで、城山の更なる分析を行う。さらに、国史跡指定となった西辺築地堀の全容解明にむけ、築地堀の延長線上の他の地形測量図を作成し、分析の基礎データの収集に努める必要がある。また、公有地化した国史跡指定地について、その保存と活用の方法の検討を進める必要がある。	

⑦ 事業 の 展 開 (A)	方向性	
	継続(現状維持)	現状どおり事業を継続する
	改善・見直し内容	
	令和6年度で対応する(した)もの 令和5年度に一部作成した城山の地形測量図を完成し、さらに赤色立体図化を実施することで、城山の分析を進める。	令和7年度以降で対応するもの 鈴鹿関跡の部分的な国史跡指定にとどまる西辺築地堀の全容解明につなげるため、築地堀の延長線上の地形測量図を作成し、分析と研究を進める。あわせて、公有地化を行った国史跡指定地について、今後の保存・活用の方向性の検討を進める。

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
成果判定	B	A		
事業展開	継続(現状維持)	継続(現状維持)		

【履歴】

1次評価者	市民文化部 文化課 まちなみ文化財GL 豊田 親臣
最終評価者	市民文化部 文化課 課長 松岡 保範